

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

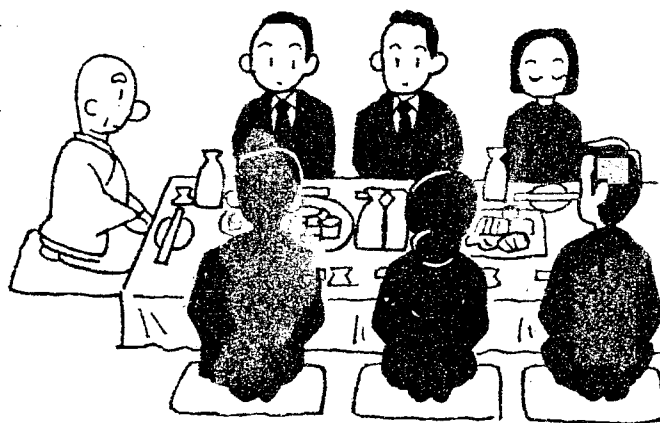
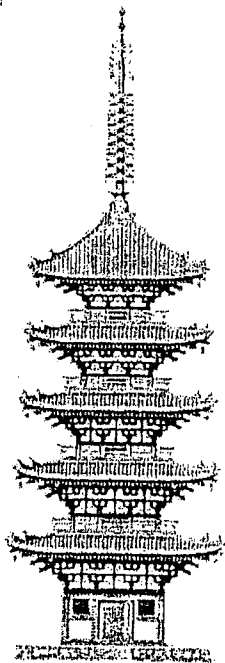
Kouhei@oh-kouhei.org

皆さんこんにちは。暑い日が続いて
いますが、いかがお過ごしですか。

昨年より様々な仏像についてお伝
えしていただきますかわら版。仏像は菩薩、
如来、明王、天部の四種類に分けられ
ますが、今月からはそれらのとれにも
属さないもの(その他)についてお伝え
します。

★閻魔大王も仏様

その他の代表格は**閻魔大王**。「閻魔大
王が仏様？」と思われた方も多いかと
思います。閻魔大王は**預修十王生七
経**という中国のお経に登場する仏様
です。日本では、平安時代に**源信**とい
うお坊さんによって広められました。
閻魔大王はご存知のように、冥界の
裁判官。「**嘘をついたら閻魔様に舌を抜
かれる**」と言われていきます。亡くなった
人は、生前にどのような生き方をして
いたかについて、**七日毎**に閻魔大王を
含む十人の裁判官(**十王**)の審査を受
けます。実は、亡くなった後の法事の
区切りが**七の倍数**であるのは、**預修十**



王生七経の教えによりります。一回目の
審査(**初七日**)に始まり、七回目(**四
十九日**)で一区切り。七回の審査でだ
いたいの判定結果が決まります。

しかし、その後も、**百々日**、**一周忌**、
三回忌の三回の追加審査があり、合計
で十回の審査になります。

なお、閻魔大王の担当は**区切りの七
回目**という説と、**五回目**という説の両
方があります。

閻魔王



★十三仏信仰

江戸時代になると、亡くなった人の審査はさらに**七回忌、十三回忌、三十三回忌**の三回分が増えて**十三回**行われるという考え方が広まりました。裁判官も十三人に増えることになりました。

しかし、これは何となく三回分増えたのではなく、**十三体の仏様**が姿を変えて**十三人の裁判官**として現れたものであるという考え方に基づきます。その十三人の裁判官は、**七菩薩(文殊、普賢、地藏、弥勒、観世音、勢至、虚空蔵)、五如来(釈迦、薬師、阿弥陀、阿闍大日)、一明王(不動)**それぞれの化身と信じられています。

このように、姿を変えて現れた元の仏様を**本地仏(ほんちぶつ)**と言います。



★閻魔大王は地藏菩薩

閻魔大王の本地仏は**地藏菩薩**。地藏菩薩は過去のかわら版(第三十五号)でお伝えしましたように、冥界の六つの世界(**六道**)をグルグル巡る衆生(人々)を救う菩薩。

人々が**天界・人間界・修羅界の善道**へ行くか、**地獄界・餓鬼界・畜生界の悪道**へ行くかを見定めます。閻魔大王は、生前に正直な生き方をしたかどうかでその行き先を差配すると言われています。



地藏菩薩

★覚王山十三仏

さて、半径一キロメートル以内に十八箇所全ての札所が収まる**日本最小の四国霊場の「写し」**、ここ**覚王山霊場**にも十三仏があります。日泰寺東側の階段を下ると多くの札所がひしめく**B地区**。この地区の道路に面した場所に覚王山十三仏があります。石造りの**七菩薩、五如来、一明王**が並んで立っておられます。

それぞれの仏像には一つずつ**真言**が掲げられています。真言とは「**仏様の徳を講じる真実の言葉**」という意味。覚王山十三仏の前で真言を唱え、すがすがしい気分でお帰りください。

★次回は十二天

さて、次回は**方角を司る十二人の仏様の集合**である**十二天**についてお伝えします。愛知県内には大変珍しい十二天像があります。乞う、ご期待。